

2月9日 富士山徐福祭開催される

2013 年 2 月 18 日 神奈川徐福研究会 伊藤健二記

2013 年 2 月 9 日、富士吉田市で、富士山徐福学会主催による「富士山徐福祭」が開催され、市民や全国徐福研究者等 100 名が集まり、神奈川からは 8 名が車 2 台に分乗して参加しました。その報告をいたします。

第一部 徐福祭式典

12 時 30 分から徐福像のある「富士山徐福公園」で徐福祭式典が開催された。地元の男女高校生による司会の元に、最初は地元小学生による徐福が鶴になったという伝説の劇が披露され、そのあと富士吉田市の堀内市長の挨拶、県外来席者の紹介、祝電の披露等が行われました。祝電は羽田孜元総理、興石東参議院議員、張雲方中国徐福会会長、韓国の禹珪日氏、台湾の徐鴻進氏などから頂いた。



式典が行われた徐福公園



富士吉田 堀内市長



神奈川県と大阪府の参加者

神奈川県から、田島孝子、河野通広、津越由康、真井ふく子、勝俣芳実、伊藤健二、大場満氏と石川郁朗氏が出席した。左の写真はさらに大阪の鳥居定義氏、石川幸子氏が加わった。

第二部 富士山徐福祭

13時30分から、場所を近くの「明見湖体験工房」に移して、徐福祭が開催された。

最初にパネルディスカッションが行われ、富士山徐福研究会の土橋代表から、「富士山と徐福」というテーマで講演がありました。内容は、司馬遷の史記から始まる徐福の日中双方の文献を年代別に紹介し、徐福伝説がいかに拡大していったかが理解できた。

また、富士吉田に残る「鶴になった徐福」の民話や、江戸川柳での徐福の話が紹介されましたが、川柳での徐福は初めて聞く話であり、庶民の間にも徐福の話が伝わっているのかと興味が持たれました。

なお、土橋先生が74回に渡り地元新聞に連載で掲載した、「徐福伝説を追う」をまとめたものを当日配布されましたが、徐福の基本的な事項を整理してあるので、徐福伝説の歴史や現状を知るための入門書としていい資料だと思う。

このあと、「徐福でまちおこし」のテーマで、全国各地の出席者から報告されました。

- ・鳥居貞義様（大阪）：徐福の本の紹介
- ・石川幸子様（大阪）：延岡市での徐福まちおこし。町内会での長寿と健康運動。
- ・大串達郎様（佐賀）：徐福の佐賀上陸の民話
- ・笹本直衛様（八丈島）：八丈島の織物技術と徐福
- ・池上正治様（作家）：今年1月に行われた八女の「ふすべ祭り」の取材報告
- ・田島孝子様（神奈川）：神奈川徐福研究会で作成した地図を見せ、日本中国徐福伝承地の紹介。慈溪の徐福記念館の紹介

フォーラム終了後、地元のバンド等による演奏が行われ、「徐福旅立ちの時」「徐福がくれたもの」などの創作音楽などが披露された。

また、同じ建物内では、「徐福画展」が開催され、地元の小学生が画いた絵が展示された。



左から、八丈島の笹本氏、作家の池上氏、田島会長



土橋代表



地元のバンドによる演奏

懇親会

夜、スナック「じゅげむ」で懇親会が開催され、情報交換等が行われた。注目すべきは、近く映画「ジョフクの恋」が公開されるということが、脚本を書いた山梨県北杜市在住の松永良平氏から説明があった。（４ページに概要を解説しました。）



徐福関連場所めぐり

翌日は好天に恵まれ、神奈川徐福会研究会は、大阪の鳥居さん、石川さんを加え、２台の車に分乗し、途中土橋さんの案内で、徐福ゆかりの地を巡った。

① 北口本宮富士浅間神社

以前私が神主に聞いたところによると、神社は直接徐福と関係はないということだ。しかし付近に徐福の記念碑が建立されている。



② 徐福の墓

明見湖の近くの丘に、徐福の墓と言われる石祠がある。しかしこの祠は江戸時代のものだろうということだ。祠自体に「徐福」等の文字があるわけではない。いつごろ誰が徐福の墓としたのかが興味を持てる。



③ 阿祖山太神宮本部

明見湖のほとりに阿祖山太神宮本部があるが、この神宮は富士の古文書が正しい歴史であり、ここがかって日本の中心地で高天原があったとし、これに基づき神社を再建したとしている。しかし祭られている神々は、天照大神など古事記の神々（富士古文書にも同じ神々が登場する）で、他の神社の神々と異なるものではない。教団の案内パンフレットでも徐福の名前は記されていない。



④ 阿祖山太神宮神社

阿祖山太神宮本部から車で十数分の山の中腹に、当神宮の神社がある。

この日は信者の礼拝と清掃奉仕の日だったようで、大勢の信者が集まっていた。神社の建物は大きいものではないが、現在土木工事中であり、規模が大きくなるのだろうか。



⑤ 河口湖浅間神社

神社の参道の中央に徐福の祠と言われる小さな祠が建っている。宮司さんに聞くと、このお周辺で機織りが盛んで、秦氏もいることから、徐福と結びついたのであるということだ。なお祠自体には、徐福と関連づけるような表記はなかった。



映画「ジョフクの恋」

富士河口湖町主催の映画祭のシナリオコンクールに松永良平氏の作品が選ばれ、2月に映画が完成しました。上映は未定ですが、しばらく後にDVDも発売の予定です。

■出演：趣里、百瀬朔、伊寄充則、荒木次元、樋口裕太ほか

■脚本：松永良平 ■監督：五藤利弘 ■制作：富士山・河口湖映画祭実行委員会

内容は、高校の演劇部を舞台となっており、演劇のため徐福伝説を調べるため入り込んだ神社の森で、主人公が徐福と入れ替わるという不思議な体験をするなどし、演劇発表に向けての、高校生の淡い気持ちを描いた青春ファンタジー。

第5回シナリオコンクールグランプリ作品

ジョブクの恋

全国から245編のシナリオが応募されたハイレベルな第5回シナリオコンクールにおいて、審査委員長の岡田恵和さん(連続テレビ小説『おひさま』『ちゅらさん』、映画『阪急電車』『いま、会いにゆきます』などの脚本家)がグランプリに選んだ作品。第4回グランプリ作『鐘楼のふたり』に引き続き五藤利弘監督がメガホンを取り、趣里さんをはじめ、百瀬朔さん、伊崎充則さんなど個性豊かなキャスト陣で制作中。

主演(本宮弓月/月姫役): 趣里

TV13年8組金八先生ファイナルで女優デビュー。主な出演作は映画『東京無印女子物語』、TV『さよならばくとちのようちえん』、舞台『HIKOBABE』など。今、最も注目の若手女優のひとり。

父親は俳優の水谷豊、母親は女優の伊藤蘭。

監督: 五藤利弘

新潟県長岡市出身。シナリオセンター研修科修了。日本シナリオ作家協会会員。報道番組やドキュメンタリー番組の構成、演出、プロデューサーを担当。一方で創映画等の脚本を書く。06年監督デビュー。

代表作は『ゆめのかよいじ』『雪の中のしろうさぎ』『モノクロームの少女』。

ストーリー

高校1年生の福山俊一は、親友の安達一郎に誘われて演劇部に中途入部する。女子ばかりだから楽だろうと思って入部したが、部長の本宮弓月(ゆづき)は厳しい。ある日、弓月は演劇部顧問の羽根田に呼ばれて富士山麓に伝わる徐福伝説について調べるように指示され、家も近い俊一を連れて行くようにと言われる。秦の始皇帝時代に日本に訪れたとされる徐福伝説を辿る弓月と俊一。途中、何かに導かれたように入り込んだ神社の森で、俊一が徐福と入れ替わるという不思議な体験をする。夢かうつつか、その体験に何かを感じた2人の距離は縮まる。そして、徐福にヒントを得た演劇台本を書き上げた弓月は主役指名されて打ち込んでいく。しかし、相手役には俊一ではなく安達が選ばれる。安達は嬉しさに舞い上がるが演劇発表会前日、不意にケガをしてしまう。……一体どうなるのか、そして、弓月と俊一の深い関係はどうなるのか。深い気持ちを描いた青春ファンタジー。

■出演: 趣里、百瀬朔、伊崎充則、荒木次元、樋口裕太ほか

■脚本: 松永良平 ■監督: 五藤利弘

■制作: 富士山・河口湖映画祭実行委員会



富士山・河口湖映画祭

富士山・河口湖映画祭は、富士山の日(2月23日)を記念する行事の一つとして毎年2月に行われています。その象徴的な取り組みとして、「富士河口湖町を舞台にしたオリジナルのシナリオ作品」を募集するコンクールを行い、グランプリ(最優秀)に選ばれた作品を映画化し、翌年の映画祭で上映しています。

平成20年に始まった富士山・河口湖映画祭は今回で6回目になります。制作する映画は、エキストラ出演から衣装提供、撮影のお手伝いなど、多数の地域住民が参加して作られた正真正銘の「おらが町の映画」です。映画祭ではこのほか、様々な話題の映画も上映されます。富士河口湖町に映画館はありませんが、多くの人達の想いがこもった「おらが町の映画祭」があります。

